

令和3年度

中津市総合教育会議

令和4年2月9日

協議・調整事項

- 1. 不滅の福澤プロジェクトの推進について**
- 2. 学校施設の利活用について**

ありがとう、福澤諭吉先生！ Thank you, Mr. Yukichi Fukuzawa!

『不滅の福澤プロジェクト』

1. プロジェクト目的

福澤諭吉先生の故郷“中津”を全国に発信することで、中津市民のシビックプライド(都市に対する市民の誇り)を醸成し、先生の思想を後世に語り継ぐ契機とする

若者をはじめとした多くの人々に福澤諭吉先生の教えを伝え、実社会を生きていくうえでの指針にしてもらうことで、グローバル時代にあらゆる場面で活躍する人材育成につなげていく

本プロジェクトにご協力いただく構成団体をはじめとした多くの皆様と福澤諭吉先生を中心としたネットワークを構築することで、故郷の偉人「福澤諭吉」を末永く後世に伝える基盤を構築する



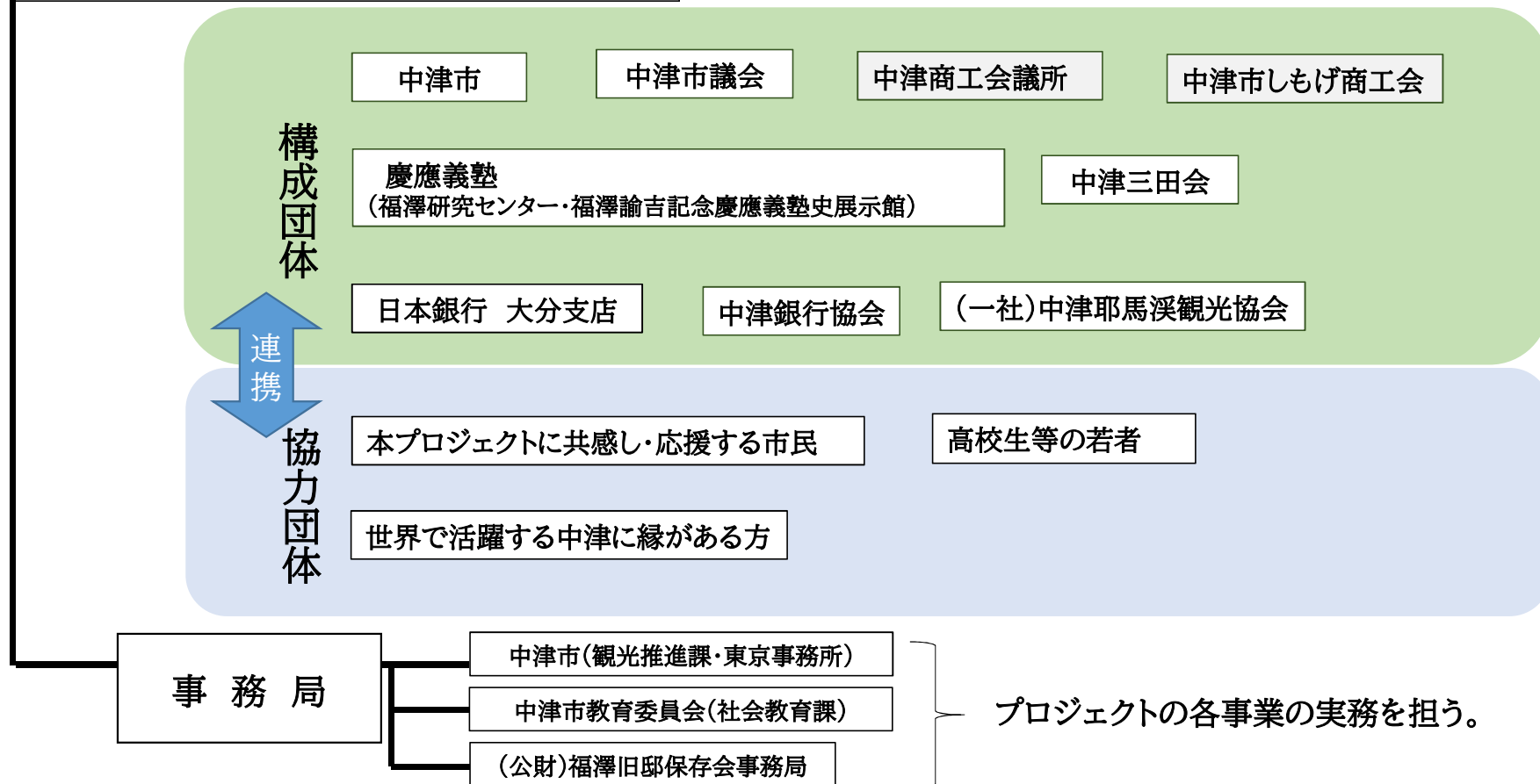
昭和59(1984)年11月1日から“壹万円札”の顔となりました。史上最長の40年にわたって壹万円札の肖像として活躍された福澤先生を、2024年の肖像交代に向けて“オールなかつ”で重点的に顕彰します。肖像が交代しても、福澤先生の偉業を末永く後世に伝えていきます。

※「オールなかつ」:中津市内の団体・個人だけでなく中津に縁のある方々、団体等幅広くネットワークを組むこと。

2.プロジェクト実施体制

不滅の福澤プロジェクト推進委員会(※1)

(※1)事業の情報共有・意見交換を行い総合的かつ効果的に推進するために年数回開催する。



事務局は構成団体や協力団体等へ事業毎に専門的な知見・経験に基づく協力要請を行う。

3.事業推進体制

【5つの柱で実施します】

不滅の福澤プロジェクト

プロジェクト期間は委員会設立～令和6年度。
令和7年度以降はアフター『不滅の福澤プロジェクト』
として継続的に取り組む。
推進委員会構成団体の事業提案枠あり。(令和5年度～)

情報発信・誘客事業

- ・メディアミックスさせた大型プロモーションの実施
- ・慶應連合三田会イベント出展
- ・福澤先生をテーマとしたパンフレット製作
- ・イベント出展

重点事業

受入体制整備事業

- ・「論吉ガイド」を活用したおもてなし事業の実施
- ・論吉先生が歩いた「城下町まちあるきマップ」製作
- ・「CoCoPia」おもてなし実行委員会と連携した中津駅おもてなし事業

重点事業

地域素材磨き事業

- ・中津カレ「論吉コルリ」の普及
- ・壱万円旅行商品販売
- ・壱万円福袋販売
- ・福澤先生に関連した観光素材の掘り起こし

重点事業

イベント実施事業

- ・福澤論吉先生の生涯や考え方をテーマとしたイベント実施
- ・ふるさと納税を活用したイベント実施
- ・構成団体提案イベント実施

重点事業

教育関連事業

- ・特別展の開催
- ・論吉かるたイベント実施
- ・親子市民講座実施
- ・読書会実施
- ・その他教育イベント実施

重点事業

4. 令和3年度の取り組み

【不滅の福澤プロジェクト設立会・第1回推進委員会】



期間: 令和3年11月30日(火)
場所: 新中津市学校
オールなかつで福澤先生の顕彰を
すすめる体制が始動

【不滅の福澤プロジェクトキックオフ事業】

①福澤諭吉壹万円札肖像交代記念
日本銀行大分支店冬休み特別展示「昭和・平成・令和 諭吉とお札の40年」
期間: 令和3年12月21日(火)～令和4年1月10日(月)
場所: 福澤記念館
主催: 公益財団法人福澤旧邸保存会
共催: 日本銀行大分支店



②企画展「華麗なる福澤家の人々」
期間: 令和4年1月15日(土)～3月6日(日)
場所: 中津市歴史博物館、福澤記念館
主催: 中津市歴史博物館・新中津市学校・公益財団法人福澤旧邸保存会
後援: 慶應義塾

【協働事業】

○「福澤諭吉旧居」デザインマンホール蓋 贈呈
日時: 令和3年12月17日(金) 11:30
場所: 中津市役所 4階 応接室
寄贈者: NPO法人中津まちづくり協議会



【市等主催の事業】

○福澤諭吉記念第60回全国高等学校弁論大会
日時 令和3年12月3日(金)午前9時
場所 中津文化会館大ホール
主催 福澤記念事業実行委員会、中津市教育委員会
共催 慶應義塾



○福澤諭吉と巡るドライブスタンプラリー
期間 令和3年12月13日(月)～令和4年2月14日(月)
スタンプスポット 福澤諭吉旧居・福澤記念館、諭吉コルリ、
中津市歴史博物館、八面山金色温泉、道の駅耶馬トピア(5か所)

○福澤諭吉先生122回忌法要および記念講演
《法要》
日時 令和4年2月3日(木)9時
場所 明蓮寺
《記念講演》
日時 令和4年2月3日(木)10時～12時
場所 リル・ドリーム
講師 平野 隆氏(慶應義塾福澤研究センター所長)
演題 福澤諭吉の実業観と門下生の企業家活動
主催 公益財団法人福澤旧邸保存会
共催 中津市教育委員会



○福澤諭吉記念近郊小中学校書写展
期間 令和4年2月5日(土)～7日(月)
場所 小幡記念図書館
主催 福澤記念事業実行委員会、中津市教育委員会



○福澤諭吉記念第13回諭吉かるた大会
日時 令和4年3月13日(日)
場所 中津下毛教育会館
主催 福澤記念事業実行委員会、中津市教育委員会
共催 公益財団法人福澤旧邸保存会

5.これからの実施スケジュール

肖像交代に向けて重点的に取り組む

4月肖像交代

令和3年度

令和4年度

令和5年度

令和6年度

令和7年度以降

不滅の福澤プロジェクト推進委員会発足

情報発信・誘客事業

- ・広告事業協議
- ・プロジェクトロゴやHP制作
- ・イベントや福澤先生について広報・PR
- ・慶應連合三田会などのイベント出展

受入体制整備事業

- ・城下町の周遊促進のため、看板整備や諭吉ガイド育成、城下町まちあるきマップ、中津駅おもてなし事業について協議

地域素材磨き事業

- ・中津カレー「諭吉コルリ」ブランド化に向けた事業計画策定
- ・壱万円旅行モニターツアー
- ・壱万円福袋企画会議
- ・福澤先生に関連した観光素材の掘り起こし

イベント実施事業

- ・福澤諭吉先生をテーマとしたイベント実施に向けた企画会議
- ・構成団体提案事業募集

教育関連事業

- ・親子市民講座や読書会などの実施について協議
- ・諭吉かるたイベント開催に向けた協議
- ・福澤記念館リニューアル実施
- ・ストリートミュージアム制作

- ・福澤先生をテーマとしたパンフレット制作
- ・イベントや特別展、福澤先生について広報、PR
- ・慶應連合三田会などのイベント出展

- ・城下町看板整備(QRコード貼付)
- ・小学生を対象に「諭吉ガイド育成」講座開講
- ・城下町周遊まちあるきマップ制作
- ・「36ぶらす3おもてなし実行委員会」と連携した中津駅おもてなし事業について実施

- ・中津カレー「諭吉コルリ」の要件定義、地域団体商標登録、参加店舗募集
- ・壱万円旅行商品販売開始
- ・福澤先生に関連した観光素材の掘り起こし

- ・各種イベント実施
- ・ノベルティの製作、壱万円福袋販売
- ・構成団体提案事業実施

- ・親子市民講座実施
- ・読書会などの教育イベント実施
- ・諭吉かるたイベント実施
- ・北里柴三郎・渋沢栄一 特別企画展開催
- ・慶應義塾史展示館とギャラリートーク開催

- ・福澤先生をテーマとしたパンフレットの増刷
- ・テレビ番組広告
- ・イベントや特別展、福澤諭吉先生について広報・PR
- ・慶應連合三田会などのイベント出展

- ・小学生を対象に「諭吉ガイド育成」講座開講
- ・城下町周遊まちあるきマップ増刷
- ・「36ぶらす3おもてなし実行委員会」と連携した中津駅おもてなし事業について実施

- ・壱万円旅行商品磨き上げ、販売
- ・福澤先生に関連した観光素材の掘り起こし

- ・各種イベント実施
- ・中津カレー「諭吉コルリ」イベント実施
- ・ふるさと納税を活用したイベント実施
- ・壱万円福袋販売、ノベルティの製作
- ・構成団体提案事業実施

- ・親子市民講座実施
- ・読書会などの教育イベント実施
- ・諭吉かるたイベント実施
- ・なかはく常設展や福澤門下生ゆかりの美術展開催
- ・慶應義塾史展示館とギャラリートーク開催

「不滅の福澤プロジェクト」はつづく

- パンフレット製作
- 旅行商品販売
- イベント実施
- など継続して行う

令和3年度事業はP4を参照

学校施設の利活用①

1 中津市における災害リスク

【出典】国土交通省ホームページ:重ねるハザードマップ



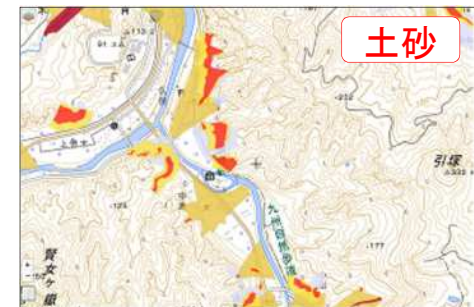
洪水



津波



高潮



土砂

2 避難行動の原則

- ①避難とは「難」を「避ける」ことであり、安全な場所にいる人まで避難する必要はありません。
(例：災害リスクの低いエリアに住んでいる方、災害リスクのあるエリアであるが、頑丈なマンションの上層階に住んでおり、十分な備蓄をしている方など。)
- ②災害種別に応じた、災害リスクのない安全なエリアへ避難すること。(水平避難)
(例：洪水、津波、高潮等の浸水想定区域内に自宅がある場合は、浸水想定区域外の高台へ避難する。)
- ③市が開設する避難所だけでなく、安全なエリアの親戚・知人宅等への避難も検討すること。(分散避難)
- ④上記の避難行動が困難な場合は、躊躇せず市が開設する避難所に避難すること。

3 避難所の区分

指定緊急避難場所



- ・災害の危険から身を守るために、緊急的に難を逃れる場所として指定します。
- ・洪水、土砂、高潮、地震、津波など、災害の種別に応じて、安全な施設を開設します。

指定避難所



- ・災害の危険性がなくなった後に、自宅が被災された方や、災害により帰宅が困難となった方等が一時的に滞在することを目的とした場所として指定します。
- ・体育館などの広いスペースが必要となります。

4 学校施設の災害リスク

地域	施設名	避難所指定状況		災害種別毎の利用の可否			
		指定緊急避難場所	指定避難所	洪水	津波	高潮	土砂
中津	南部小学校	-	○	×	○	×	-
	北部小学校	-	○	×	○	×	-
	豊田小学校	-	○	×	○	×	-
	小楠小学校	-	○	×	○	×	-
	鶴居小学校	-	○	×	○	○	-
	大幡小学校	-	○	○	○	○	-
	如水小学校	-	○	○	○	○	-
	三保小学校	-	○	○	○	○	-
	和田小学校	-	○	○	○	○	-
	今津小学校	-	○	○	○	○	-
	沖代小学校	-	○	×	○	○	-
	豊陽中学校	-	○	×	○	×	-
	緑ヶ丘中学校	-	○	○	○	○	-
	中津中学校	-	○	×	○	×	-
	城北中学校	○	○	×	○	×	-
	東中津中学校	-	○	○	○	○	-
今津中学校	-	○	○	○	○	-	

地域	施設名	避難所指定状況		災害種別毎の利用の可否			
		指定緊急避難場所	指定避難所	洪水	津波	高潮	土砂
三光	真坂小学校	○	○	○	-	-	○
	山口小学校	-	○	○	-	-	○
	秣小学校	○	○	○	-	-	○
	深水小学校	○	○	○	-	-	○
	三光中学校	-	○	○	-	-	○
本耶馬溪	樋田小学校	○	○	×	-	-	○
	上津小学校	-	○	○	-	-	×
	本耶馬溪中学校	-	○	×	-	-	×
耶馬溪	城井小学校	-	○	×	-	-	○
	下郷小学校	○	○	×	-	-	○
	津民小学校	-	○	○	-	-	×
	耶馬溪中学校	-	○	×	-	-	×
山国	三郷小学校	○	○	×	-	-	×
	山国中学校	○	○	×	-	-	×

※赤字箇所の学校について、洪水による浸水想定区域内に位置するが、逃げ遅れた方や遠くへの避難が困難な方を受け入れる、緊急的な避難場所として利用できるよう学校と調整中です。

洪水による浸水の例（北部小学校）



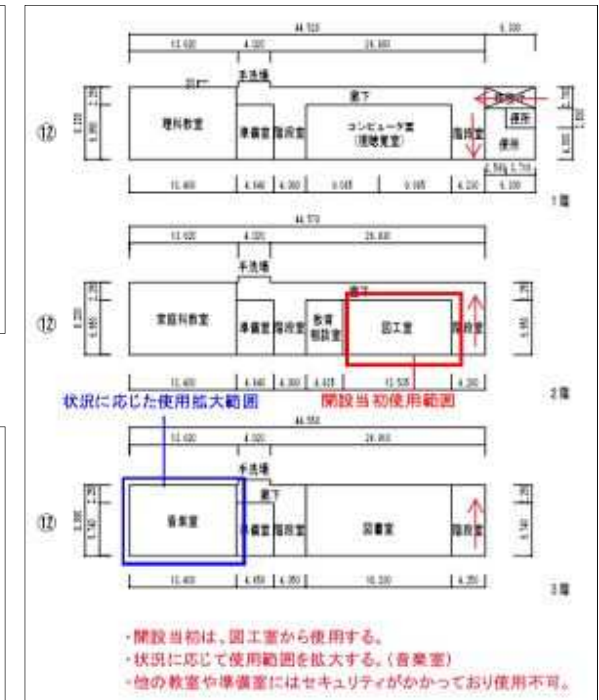
【出典】国土交通省ホームページ：重ねるハザードマップ

5 学校施設を避難場所として利用する際の課題

- ①洪水時における利用の場合、上層階を利用する必要があるが、**利用可能範囲は限定的**である。（プライバシー保護等のため、普通教室等は利用不可。警備システム対象エリアがある。）
- ②上層階への移動にあたっては、階段を利用することになり、高齢者等に負担がかかる。
- ③避難所開設・閉鎖のタイミングによっては、登下校と重複する場合がある。
- ④備蓄品等の保管スペースの確保に限りがある。

6 今後の取り組み

- ①避難行動の原則の周知を行い、早めに安全なエリアへの避難を促進する。
- ②自治会・防災士・社協等と協力し、避難に何らかの支援を必要とする方々の円滑な避難のため、個別避難確保計画の作成を推進する。
- ③避難場所として利用するための基本的なルール（利用エリア、手順）を再確認し、学校との連携を図る。
- ④学校・自治会・防災士等と連携した避難所開設・運営訓練を行う。



○放課後児童対策における学校施設の活用

文部科学省
厚生労働省

「新・放課後子ども総合プラン」
(平成30年9月公表)

「新・放課後子ども総合プラン」に掲げる目標

- ・女性の就業率の更なる上昇に対応できるよう放課後児童クラブを整備し、待機児童の解消を図る。
- ・全ての小学校区で放課後児童クラブ又は放課後子ども教室を一体的に又は連携して実施。
- ・新たに放課後児童クラブ又は放課後子ども教室を整備する場合には、学校施設を活用し、小学校内での実施を目指す。
- ・子どもの主体性を尊重し、子どもの健全な育成を図る放課後児童クラブの役割を徹底し、子どもの自主性、社会性等の向上を図る。

学校施設を積極的に活用

「放課後こども教室」
放課後や週末に子どもの居場所をつくる目的で、地域住民と子どもたちが、学校や公民館で様々な体験活動を通じて交流(週2回程度)しています。

面積を縮小

「中津市公共施設管理プラン」
(平成29年3月公表)

施設の有効活用

校区別の内訳	
南部	1
北部	4
豊田	2
小楠	4
鶴居	4
大幡	3
如水	2
三保	1
和田	1
今津	1
沖代	4
三光	3
本耶馬溪	2
耶馬溪	3
山国	1
合計	36

中津市における放課後児童クラブの状況 (令和3年度)									
区分	設置数	児童クラブ設置校区	入所児童数						
			小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
小学校の校舎を利用 (余裕教室)	7	南部、沖代2か所、和田、今津、真坂、上津	79	66	53	11	5	1	215
小学校内の他の施設を利用 (プレハブ、専用施設)	6	北部、豊田2か所、鶴居、三保、樋田	71	66	37	5	0	0	179
小学校外の公共施設を利用 (専用施設、集会施設)	10	沖代、鶴居2か所、大幡2か所、山口、秣、城井、津民、山国	83	80	43	21	11	1	239
民間の施設を利用 (民間保育所など)	13	北部3か所、小楠4か所、鶴居、大幡、如水2か所、沖代、下郷	121	121	79	34	17	9	381
計	36		360	309	182	68	30	21	1,014

放課後児童クラブの現状の課題とこれまでの対策

課題

待機児童多数

- ・児童数の多い校区では3～4年生以上は入れないと申し込みをせず断念するケースが多い
- ・潜在する待機児童 → 200名以上見込まれる

施設の老朽化

- ・旧下毛地域の児童クラブ専用施設は狭小で老朽化が進む（三光を除く地域は小学校の児童数が減少）

対策と効果

学校の活用

- ・学校施設の利活用が進む
- ・学校施設の使用に関するガイドラインを策定

アドバイザー

- ・小学校長OBを児童クラブアドバイザーとして登用
- ・学校との連携強化による児童・保護者への相互支援



真坂児童クラブ（三光）

コロナ禍における学校との連携

- ・臨時休業中の1～3年生の預かり登校の実施
- ・児童クラブの密回避のためランチルームや体育館等を提供
- ・教員による児童クラブへの訪問

最近の学校施設の活用例

- 【真坂小】 図工室の一部を転用(R3.3)
- 【大幡小】 夏休みに音楽室を利用(R3.8)
- 【上津小】 パソコン教室に移転(R4予定)
- 【深水小】 余裕教室で見守り(R4.4予定)

